北京市における高齢者福祉施設 の入所意識に関する分析

AN ANALYSIS ON THE SITUATION OF LIVING CONSCIOUSNESS IN THE WELFARE FACILITIES FOR THE ELDERLY IN BEIJING

長谷川直樹 — * 1 鈴木博志 — * 2
戴 維 — * 3

Naoki HASEGAWA — * 1 Hiroshi SUZUKI — * 2
Dai WEI — * 3

キーワード：
北京市, 高齢者福祉施設, 入所理由

Keywords:
Beijing, Welfare facilities for the elderly, Reason for moving in

The questionnaire about an living situation and living consciousness was carried out to the person moving in the elderly-people welfare facilities in Beijing. The difference in the consciousness for moving in by a person's body conditions is arranged. Moreover, by totaling according to geographic division, the difference in the consciousness for moving in by a location place is analyzed. From these results, the reason for moving in of elderly-people welfare facilities is arranged, and also the subject of the location situation of the institution seen from the consciousness for moving in is considered.

1. はじめに

北京市では、高齢化が急速に進んでおり、2010年末時点の60歳以上の高齢者^{注1)}は235万人であり、前年より8.4万人増加し、総人口の18.7%を占めている。また、80歳以上の高齢者人口は35.1万人、総人口の2.8%を占めている。なお、北京市内にある老人ホーム・介護施設は386カ所、ベット数が6万7018床、高齢者100人に対して、2.9床といった状況にある¹⁾。そういった中で、2004年11月に公布された「北京市城市総体規劃(2004年～2020年)」(北京市都市マスタープラン)により、高齢社会に向け、高齢者福祉施設の建設を加速することが位置付けられている。また、「關於加快养老服务機構發展的意見(2009年1月)」により、北京市において2009年から一般高齢者を対象とした高齢者福祉施設(入所施設)^{注2)}のベッド数を毎年1万床増やす計画であり、2020年までに入所施設のベッド数を14万床確保することが目標として設定されている。

このように、北京市においては計画的に高齢者福祉施設(入所施設)の整備が求められている中で、都心部と郊外部における施設の利用率^{注3)}に不均衡が生じている問題が指摘されており、その改善のために高齢者の施設入所の選択要因(入所意識)を明らかにすることが求められている²⁾。中国の高齢者福祉施設の入所者に関する既往研究は、北京市における高齢者福祉施設の入所者の属性や持病に関するアンケート調査報告³⁾があるが、高齢者福祉施設への入所理由を入所者へのアンケート調査を実施し、把握・分析したものはない。したがって、本研究では、高齢者福祉施設の入所者を対象にしたアンケート調査を実施し、入所意識を分析することにより、施設の入所率を高めるために必要な要素を整理することを目的とする。

2. 調査の方法

本研究では、北京市の都心4区・近郊4区および発展新区に立地

している入所型高齢者福祉施設237施設を対象に、施設の種別・立地等を考慮して30施設を抽出し、入所者に対して、入所状況と入所意識に関するアンケート調査を実施する。

アンケート調査結果を施設種別毎に集計することにより、主として入所者の身体条件等による入所意識の差異を整理する。また、立地場所を考慮した地域区分別に集計することにより、立地場所による入所意識の違いを分析する。

これらの結果をもとに、高齢者福祉施設の入所理由を整理するほか、入所意識からみた施設の立地状況の課題を考察する。

2.1 調査対象施設

北京市における高齢者福祉施設は、表1に示すように施設の機能や入所対象者により5種類に分けられる。それらは、老年公寓、老年護理院、托老所、敬老院、養老院であり、市民政部門の社会福利管理处で管理されている。これらの施設種別のうち、主としてデイサービスを実施している托老所を除く4種類の施設を入所型高齢者福祉施設の研究対象とする。

表1 北京市における高齢者福祉施設の種別

高齢者福祉施設の種別	機能やサービス内容	費用負担
老年公寓	家庭のような生活スタイルを実施し、高齢者の身体機能や精神特徴に合わせた福祉施設。	自己負担
養老院 (老年社会福利院)	日常生活のサービスを提供する総合的なサービス機関。	自己負担
敬老院	街道、郷(鎮)の「三無」 ^{注4)} 高齢者を主な対象としてとしているが、一般高齢者も入居できる。	「三無」高齢者は無料。一般高齢者は自己負担
老年護理院	介護を必要とする高齢者に、生活サービス、リハビリ治療が主なサービスとして提供する。	自己負担
托老所	昼間に入所した高齢者に生活サービスや介護サービスなどを提供する。	自己負担

※参考文献1)に基づき作成

¹⁾ 名城大学理工学部建築学科 講師・博士(工学)
(〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1-501)
²⁾ 名城大学理工学部建築学科 教授・工博
³⁾ 中鉄置業亳州投資發展有限公司 博士(工学)

¹⁾ Lecturer, Meijo Univ., Dr. Eng.

²⁾ Prof., Meijo Univ., Dr. Eng.

³⁾ China Railway Real Estate Bozhou Investment and Development Co., Ltd., Dr. Eng.

2.2 調査対象範囲

本研究は図1に示すように、北京市内における都心4区、近郊4区および発展新区を研究対象地域とする^{注5)}。

図1 調査対象範囲（北京市の都心4区、近郊4区、発展新区）

3. 高齢者福祉施設の状況

3.1 施設整備状況

調査対象の高齢者福祉施設の立地状況を表2に示す。施設種別は、敬老院が152施設（全体の64.1%）と突出して多く、老年公寓と養老院がそれぞれ49施設（20.7%）および31施設（13.1%）である。老年護理院は、5施設（2.1%）である。地区別施設数は、都心4区が30施設（12.7%）、近郊4区が79施設（33.3%）、発展新区が128施設（54.0%）である。なお、敬老院はすべての地区で過半数を占めている。

表2 高齢者福祉施設の整備状況（施設数）

地区 属性 種別	都心4区		近郊4区		発展新区		計		合計
	行政	民間	行政	民間	行政	民間	行政	民間	
老年公寓	2	2	11	14	4	16	17	32	49(20.7%)
養老院	0	0	4	7	3	17	7	24	31(13.1%)
敬老院	20	5	18	25	74	10	112	40	152(64.1%)
老年護理院	0	1	0	0	1	3	1	4	5(2.1%)
計	22	8	33	46	82	46	137	100	237(100%)
合計	30 (12.7%)		79 (33.3%)		128 (54.0%)		237 (100%)		

※参考文献5)をもとに作成。

3.2 建築年代と立地場所の関係

高齢者福祉施設の地区別施設数の推移を図2に示す。

高齢者福祉施設は1950年代から整備され始めているが、1970年代後半までは施設数が20箇所以下であり、大きな変動が見られない。

1979年の改革開放以降は、近郊4区と発展新区において行政による施設が徐々に増え始めており、改革開放の直後から行政主体で施設整備が進められていることがわかる。1985年以降は、これまで施設立地のなかった都心4区での施設整備が行政主体で進められるようになっていく。1997年以降に近郊4区、発展新区で民間による施設が増え、近年、近郊4区では行政よりも民間による施設が多くなっている。2000年以降には、発展新区で行政による施設が大幅に増加している。これは都心4区から発展新区への人口移動を促進する都市政策⁶⁾が影響していると考えられる。

※参考文献3)をもとに作成

図2 建築年代と立地場所の関係

4. アンケート調査結果

4.1 アンケート調査実施内容

施設種別と立地場所が概ね平準化されるように地区別・施設種別毎に施設をグループ化した上で、施設の建築年代、規模、入所率、設置主体の4つの視点で、研究対象地域内における全237施設を分類し、分類項目ごとに無作為抽出した。抽出率は分類項目ごとに概ね10%~15%であり、施設種別で各分類項目から1~2施設を抽出した。

抽出した施設数とアンケート回収票数を表3と表4に示す^{注6)}。

表3 施設種別毎の調査箇所数とアンケート回収票数

	老年公寓	養老院	敬老院	老年護理院	合計
調査施設数 (施設種別毎に対する割合)	4 (8.2%)	4 (13.0%)	19 (12.5%)	3 (60.0%)	30
アンケート回収票数	57	79	247	43	426
アンケート有効票数 (有効回収率)	57 (71%)	72 (90%)	238 (65%)	38 (63%)	405 (68%)

表4 地区別の調査箇所数とアンケート調査回収票数

		都心4区		近郊4区		発展新区		合計	
区毎における 施設調査箇所数		西城区	2	海淀区	1	昌平区	4		
		東城区	2	朝陽区	3	順義区	3		
		宣武区	1	石景山区	1	通州区	3		
		崇文区	1	豊台区	5	大興区	3		
						房山区	1		
施設属性	民間	2		4		7		13	
	行政	4		6		7		17	
合計 (地区毎の割合)		6 (19.4%)		10 (13.1%)		14 (10.8%)		30 (12.7%)	
アンケート 回収票数		67		108		251		426	
アンケート 有効票数 (有効回収率)		64 (53%)		105 (53%)		236 (84%)		405 (68%)	

アンケートの調査項目は、「入所者属性」および「入所意識」であり、特に入所意識については、施設選択理由を立地条件、施設水準、

サービス水準、および周辺環境などの項目から複数回答する設問としている。また、今後の入所期間の意向や子供との同居の予定を把握する。なお、1施設あたり20名を調査対象とし、入所者が直接選択肢を選んで記入する方法でアンケート調査を実施している。

表5 アンケート調査実施内容

調査時期	2009年9月～10月（都心4区と近郊4区） 2009年12月～2010年1月（発展新区）
調査方法	・施設職員による配布回収 （各施設の職員へアンケート用紙20部を届ける。都心4区・近郊4区は手配り・手回収。発展新区は郵送による配布回収。） ・施設職員が入所者の中からアンケート回答者を任意で抽出。アンケート用紙に自ら記入できる回答者を基本に抽出しているが、自ら記入できる回答者が20名以下の場合は、施設職員が口頭でアンケートを実施。 ・各施設の入所者数に対するアンケート抽出率は10～50%。
調査項目	①入所者属性 ・年齢・性別・入所年数・身体状況 ・入所形態・サービス受給状況 ・入所理由 ②入所意識 ・今後の入所期間の意向 ・子供との同居予定

4.2 アンケート調査結果

（1）回答者の属性

各施設の入所者の属性を表6に示す。

表6 入所者の属性

アンケート調査項目		老年公寓	養老院	敬老院	老年護理院	調査全体
①年齢	59歳以下	0%	10%	4%	3%	5%
	60～64歳	0%	8%	4%	8%	4%
	65～69歳	6%	5%	7%	3%	6%
	70～74歳	14%	15%	18%	24%	17%
	75～79歳	29%	22%	22%	29%	24%
	80～84歳	29%	20%	24%	21%	23%
	85～89歳	18%	18%	12%	8%	14%
	90歳以上	4%	3%	10%	5%	7%
	平均年齢（歳）	79.6	75.6	78.0	76.1	77.4
②性別	男性	33%	56%	52%	53%	51%
	女性	67%	44%	48%	47%	49%
③入所年数	1年未満	8%	10%	14%	8%	11%
	1年以上～2年未満	25%	28%	16%	29%	22%
	2年以上～3年未満	20%	22%	15%	42%	20%
	3年以上～4年未満	18%	16%	22%	21%	20%
	4年以上～5年未満	8%	10%	7%	0%	7%
	5年以上～10年未満	20%	14%	23%	0%	18%
	10年以上	0%	1%	3%	0%	2%
	平均入所年数	2.9	2.7	3.1	1.8	2.9
④身体状況	健常者	61%	18%	33%	21%	31%
	要支援者	33%	22%	46%	13%	35%
	要介護者	6%	60%	22%	66%	34%
⑤入所形態	単身入所	65%	93%	92%	87%	89%
	夫婦入所 （同一施設）	35%	7%	8%	13%	11%
⑥利用 サービス	食事提供	100%	99%	98%	100%	99%
	洗濯補助	74%	88%	82%	76%	81%
	入浴補助	10%	6%	19%	18%	45%
	排泄補助	14%	10%	21%	11%	27%
	リハビリ 回復	12%	64%	40%	68%	14%
	外出同伴	6%	51%	14%	58%	16%
	その他	0%	6%	1%	0%	2%

年齢構成は、各施設ともにほぼ同じ傾向がみられ、平均年齢は76～80歳であり、75～84歳の割合が高くなっている。また、男女比は老年公寓を除く3施設では男性の割合が若干高い傾向にある。入所年数は、各施設ともに3年未満が過半数を占めており、特に老年護理院は79%を占める。

入所者の身体状況は、各施設の機能等の違い（表1参照）に応じた特徴がみられる^{注7)}。養老院と老年護理院では、介助が必要である入所者の割合が高く、特に老年護理院では入所者の60%を占めている。老年公寓では、自立できる入所者の割合が高く、60%を超えている。居住形態としては、全体平均で9割近い入居者が単身入居であるが、老年公寓では、夫婦入所が比較的多くなっている。

食事サービスは、各施設ともに、ほぼ全員が利用している。入所者の身体状況に対応して、養老院および老年護理院では、入浴・排泄補助（比較的重い介護補助）を受けている割合が高い。

（2）施設分類別の入所意識等

①入所理由

入所理由を施設別にみると、老年公寓は「食事が旨い」が最も多く全体の84%を占めている。次いで「職員の態度が良い」（78%）、「周辺の自然環境が良い」（69%）、「施設が良い」（63%）、「子供居住地に近い」（53%）が多くなっており、他施設に比べて「食事が旨い」、「周辺の自然環境が良い」および「施設が良い」が突出して多い傾向にある。養老院は、「職員の態度が良い」（77%）が最も多く、次いで「子供居住地に近い」（69%）、「入所費用が安い」（54%）であり、「子供居住地に近い」ことが入所理由として比較強い傾向にあることが特徴である。敬老院は、「職員の態度が良い」（71%）、「食事が旨い」（55%）、「周辺の自然環境が良い」（54%）、「子供居住地に近い」（52%）という状況であり、他施設と比較して平均的な傾向にあるといえる。老年護理院は、「職員の態度が良い」（76%）および「食事が旨い」（58%）以外はすべて40%以下である。特に、「子供居住地に近い」は他施設では50%を超えているが、老年護理院では37%と低い傾向にある。入所理由の全体的な傾向として、「職員の態度が良い」はすべての施設で70%を超えており、施設選択理由として、比較的大きな要因になっているといえる。次いで、「食事が旨い」および「子供居住地に近い」も全体平均で50%以上であり、施設選択への影響が示唆される。

表7 入所理由

アンケート調査項目	老年公寓	養老院	敬老院	老年護理院	調査全体
(A) 子供居住地に近い	53%	69%	52%	37%	56%
(B) 入所費用が安い	61%	54%	47%	26%	49%
(C) サービスが充実している	41%	23%	20%	29%	24%
(D) 施設が良い	63%	12%	26%	32%	27%
(E) 繁華街に近い	49%	3%	19%	5%	17%
(F) 周辺の自然環境が良い	69%	35%	54%	29%	47%
(G) 職員の態度が良い	78%	77%	71%	76%	74%
(H) 食事が旨い	84%	52%	55%	58%	59%
(I) 娯楽施設が充実している	49%	8%	12%	8%	14%
(J) 住みやすい（バリアフリー化）	27%	9%	17%	16%	15%
(K) リハビリ施設が充実している	18%	5%	12%	11%	10%
(L) 空いていた	4%	1%	7%	3%	5%
(M) その他	8%	10%	5%	5%	6%

なお、比較的健常者の多い老年公寓および敬老院において、「周辺の自然環境が良い」が多くなっていることも施設選択上の特徴であるといえる。

②今後の入所意識等

将来的な入所継続意向は、すべての施設で9割以上が「ずっと住みたい・当分住みたい」と答えており、居住意向は強いといえる。また、将来的な子供との同居予定は概ね9割が同居予定なしと答えている。

表 8 今後の入所意識

アンケート調査項目		老年公寓	養老院	敬老院	老年護理院	調査全体
①希望入所期間	ずっと住みたい	88%	83%	75%	87%	80%
	当分住みたい	6%	12%	18%	13%	14%
	どちらでもない	6%	5%	5%	0%	5%
	いつか出たい	0%	0%	2%	0%	1%
	すぐ出たい	0%	0%	0%	0%	0%
②子供との同居予定	ある	6%	10%	11%	19%	12%
	ない	94%	90%	89%	81%	88%

(3) 施設立地場所別の入所意識等

施設が立地している地区（都心4区、近郊4区および発展新区）毎に特徴のある事項を整理する。

①入所理由

入所理由の全体平均で50%を超える項目のうち、「職員の態度が良い」および「食事が旨い」は地区ごとに大きな違いはないが、「子供居住地に近い」は差異が生じており、発展新区では他地区に比べて20%程度低い傾向にある。施設別で、「子供居住地に近い」の回答が比較的低い老年護理院（全5施設）のうち、80%が発展新区に立地しているが、その数（4施設）は発展新区内の全施設の3%にしかすぎないため、この傾向は地区特性を反映した特徴であると考えられる。なお、都心4区では、「子供居住地に近い」が「職員の態度が良い」と同率で最も多くなっており、この傾向も地区特性上の特徴であるといえる。

表 9 入所理由（地区別）

アンケート調査項目	都心4区	近郊4区	発展新区	調査全体
(A) 子供居住地に近い	67%	68%	47%	56%
(B) 入所費用が安い	44%	46%	52%	49%
(C) サービスが充実している	25%	19%	26%	24%
(D) 施設が良い	47%	16%	26%	27%
(E) 繁華街に近い	52%	13%	10%	17%
(F) 周辺の自然環境が良い	56%	24%	56%	47%
(G) 職員の態度が良い	67%	76%	75%	74%
(H) 食事が旨い	56%	59%	58%	59%
(I) 娯楽施設が充実している	19%	10%	16%	14%
(J) 住みやすい（バリアフリー化）	25%	7%	17%	15%
(K) リハビリ施設が充実している	3%	3%	16%	10%
(L) 空いていた	3%	2%	6%	5%
(M) その他	9%	5%	6%	6%

また、「周辺の自然環境が良い」は、都心4区および発展新区では50%以上を占めているが、近郊4区では24%と突出して低い傾向にある。施設別で、「周辺の自然環境が良い」の回答割合が最も高い老年公寓は、近郊4区に最も多く立地しており、回答割合が最も低い老年護理院は立地していない状況の中で、「周辺の自然環境が良い」

の回答割合が他地区に比べて突出して低い状況は、地区特性を反映した施設選択の特徴的な要因であると考えられる。都心4区において、「繁華街に近い」が50%を超えていることも、地区特性上の特徴であるといえる。

②今後の入所意識等

「ずっと住みたい」の割合が都心4区において比較的高い傾向にある。都心4区は、施設別で「ずっと住みたい」の割合が最も低い敬老院の立地割合（全体の81%）が他地区に比べて高い状況のなかで、「ずっと住みたい」の割合が最も高いことから、都心4区での継続入所希望は、他地区に比べて高い傾向にあるといえる。

表 10 今後の入所意識（地区別）

アンケート調査項目		都心4区	近郊4区	発展新区	調査全体
①希望入所期間	ずっと住みたい	86%	74%	81%	80%
	当分住みたい	11%	17%	14%	14%
	どちらでもない	2%	8%	5%	5%
	いつか出たい	2%	1%	1%	1%
	すぐ出たい	0%	0%	0%	0%
②子供との同居予定	ある	13%	13%	11%	12%
	ない	87%	87%	89%	88%

5. まとめ

本研究において、北京市内の入所型高齢者福祉施設を対象として、入所者の属性および入所理由等に関するアンケート調査結果をもとにして、施設別、立地地区別に入所理由等に特徴があることが整理できた。以下に主な特徴を整理するとともに、施設入所を高める要因について考察する。

5.1 施設種別・地区特性によらない主要な入所要因

入所理由のうち、「職員の態度が良い」、「食事が旨い」は、すべての施設・地区で50%以上を占めており、施設選択の基本的要因であるといえる。特に、「職員の態度が良い」は、全体平均で74%を占めており、施設選択に対して大きな影響要因になっているといえる。職員の態度により入所を判断する傾向が強い状況から判断して、施設により職員の態度の良し悪しの差が大きいことが示唆される。

5.2 施設種別（身体状況）による入所要因

健常者の割合が高い施設（老年公寓）ほど、50%を超える入所理由の項目が多く、要介護者が多い施設（老年護理院）ほど少ない傾向が表れており、特に、健常者は「周辺の自然環境が良い」ことを入所理由として重要視している傾向が比較的真著である。

健常者ほど、施設選択の判断基準が多様であり、施設周辺の環境も比較的重要な判断要素にしており、要介護者ほど基本的な判断項目（「職員の態度が良い」、「食事が旨い」）のみで施設選択している傾向があると考えられる。

5.3 地区特性による入所要因

都心4区は、「子供居住地に近い」、「周辺の自然環境が良い」、「繁華街に近い」という入所理由が多く、「入所費用が安い」という理由が比較的低い傾向にある。また、「ずっと住みたい」という意識も他地区に比べて強い傾向にある。

近郊4区は、「子供居住地に近い」という入所理由が最も多いなかで、「周辺の自然環境が良い」、「施設が良い」および「サービスが充実している」が最も低くなっており、子供居住地に近いことが入所理由として優先されている傾向が示唆される。

発展新区は、「自然観環境が良い」や「入所費用が安い」という入所理由が比較的多いなかで、「子供居住地に近い」が比較的低い傾向にある。

5.4 施設入所を高める要因の整理

これまでの整理・分析結果をもとに、施設入所を高める要因を考察する。

(1) 基本的な施設サービスの安定・向上

「職員の態度が良い」、「食事が旨い」といった施設サービスの基本的事項により入所選定している傾向が比較強いいため、これらの施設間格差を是正し、全体のサービス水準を向上することにより、施設入所が促進・平均化する可能性があると考えられる。

(2) 周辺の自然環境の創出・活用

健康者を中心に、「周辺の自然環境が良い」ことを施設入居理由として重要視する傾向があり、入所理由の項目を相対的にみると、入所費用や施設およびサービス充実度よりも周辺環境の良さが支持されている傾向があることは特徴的な施設選択要因であるといえる。施設内および施設周辺の環境整備（自然環境の保全・創出）を図ることが、施設入所を高める要因になる可能性があると考えられる。

(3) 都心部での施設立地の促進

都心部ほど子供居住地に近いことが重要視される傾向がある。また、都心4区は都心部の特徴を反映した入所理由（繁華街に近い）や「ずっと住みたい」という意識も他地区よりも高い傾向にあることから、他地区と比較しても施設需要は高いと考えられるが、施設の整備状況をみると都心4区の施設整備量は他地区に比べて大幅に不足している状況にある²⁾。都心部での施設整備を促進することにより、施設需要と供給のバランスが是正される可能性があると考えられる。

本調査は、抽出調査ではあるが、北京市内の高齢者福祉施設の入所者が施設選択理由などを直接回答しており、入所者の立場からみた施設の利用状況と意見・意向を整理している。これらの整理結果は、北京市において入所型高齢者施設を効率的・効果的に整備する方策を検討するための判断材料として有益な状況を提供していると考えられる。

なお、発展新区での施設利用率が低い状況²⁾にあるなかで、発展新区と他地区の入所理由の傾向の違いは、「子供居住地に近い」の回答割合（選択要因の重要度）の差が比較的大きく表れており、子供居住地と離れていることが施設入所が促進されない要因の一つになっている可能性があることが示唆されるため、子供居住地と親（高齢者）の入所施設の立地場所の相関関係^{注8)}を整理し、子供居住地が施設入所に与える影響を分析することが今後の研究課題である。

参考文献

- 1) 北京市高齢者弁公室：「2010年北京市高齢者人口情報と高齢者事業の報告書」、2011.9
- 2) 戴維・長谷川直樹・鈴木博志：北京市における高齢者福祉施設の立地と利用率の状況に関する研究—高齢者福祉施設の立地のあり方について—その1—、日本建築学会計画系論文 Vol. 75, No. 647, pp. 175-182, 2010.1
- 3) 王占芳・侯淑肖・彭嘉琳：北京市養老服務機構收住老人基本構成情況調查、中国民康医学雑誌 第16巻 第4期, pp235-237, 2004.4

- 4) 北京市人民政府：「關於区县功能定位及評價指標的指導意見」（区、県の機能の定義および評価基準の指導意見について）、2005

- 5) 北京市社会福利信息网：（北京社会福祉情報ホームページ）

http://bjfl.bjzj.gov.cn/index.do?websitId=900&netTypeId=2, 参照日 2009.1

- 6) 北京市計画委員会：「北京城市総体規劃（2004～2020年）」（北京市都市マスタープラン 2004～2020年）、北京市人民政府、2005

注

注1) 中国では、高齢者福祉施設（入所施設）の利用対象は60歳以上が該当するため、本研究では、高齢者は60歳以上と定義する。また、撫恤優待対象と離休退休幹部と「三無」^{注4)}高齢者を除いた高齢者を一般高齢者と表現する²⁾。

注2) 中国では、入所型の高齢者福祉施設が5種類に分けられており、高齢者福祉施設として認められ、民政部門の社会福利管理处で管理されている（高齢者福祉施設と略称する。以下同様）。施設種別の説明は、表1を参照。

注3) 本研究では、施設ベッド数に対する入所人数のことを入所率と定義する。中国では、高齢者福祉施設の入所者は、専用部屋を確保するため、1人で部屋内の複数ベッドを貸切る状況が一部でみられる。参考文献2)で用いている利用率は、施設ベッド数に対するベッドの利用数（貸切りのベッドを含む）である。本稿では、実際の施設入所の状況（入所人数）を把握するために、入所率を用いて分析を行う。なお、高齢者福祉施設の入所率の状況（入所率別の施設数）を下表に示す。

入所率	都心4区	近郊4区	発展新区
49%以下	0	26	66
50～69%	8	13	23
70～89%	9	22	29
90%以上	13	18	10
合計	30	79	128

※参考文献5)をもとに作成。

注4) 「三無」高齢者とは、認定した法律上の扶養親戚がいない、労働能力がない、収入がない高齢者である。

注5) 北京市は16区と2県（区と同様に北京市内に所属する行政区）から構成されているが、区ごとの立地場所と都市機能により、大きく4地区に分けられている。それぞれ、都心4区、近郊4区、発展新区、生態保護区である⁴⁾。北京市の最も外側に位置する生態保護区は、自然保護や観光などの機能を持ち、環境保護を優先する地区であり、ほかの3地区と市街地建設方針が大きく異なる。したがって、本研究において、生態保護区は調査対象地域からは除外している。

注6) アンケート調査対象施設として抽出した施設の地区別・施設種別の施設数は下表のとおり。

区分	都心4区	近郊4区	発展新区	合計
老年公寓	1	2	2	4
養老院			4	4
敬老院	4	8	7	19
老年護理院	1		2	3
合計	6	10	14	30

注7) 入所型高齢者福祉施設のうち、老年公寓はシルバーマンション的な性格であり、比較的裕福層の施設であると考えられる。また、老年護理院は比較的重い介護を必要とする入所者が多い施設である。養老院および敬老院は、要介護者から健康者までが利用する施設であり、施設の立地数も他施設に比べて多い。

注8) アンケート調査結果によると、入所施設の立地場所が入所者の前住地および子供の居住地と異なっている入所者の割合は、都心4区6%、近郊4区11%、発展新区32%である。

[2012年10月14日原稿受理 2013年1月22日採用決定]